

2026年3月期 決算について

2026年 5月12日
JFE鋼板株式会社

2026年3月期の連結業績(2025年4月1日～2026年3月31日)

(百万円未満切捨て)

連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	66,250	▲ 5.7	6,182	-	4,193
2025年3月期	70,269	▲ 3.6	5,766	-	3,898

注 連結子会社数

2026年3月期 5社、2025年3月期 5社

(百万円未満切捨て)

(参考)単体経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	57,412	▲ 7.3	6,053	-	4,191
2025年3月期	61,937	▲ 2.9	5,509	-	3,756

【当期の概況】

当期における建材向け薄板鋼板をとりまく環境は、住宅着工の低迷に加え、非住宅分野においても需要が弱含みで推移するなか、資材価格の高止まりや建設業における人手不足、法改正の影響もあり、着工・工期の遅れが生じ、需要回復は限定的なものにとどまりました。一方で、省エネ対応や高機能商品における需要は底堅く推移しました。

当社はこのような事業環境に応じ、安定操業および高付加価値分野への取組を強化しました。その結果、連結売上高は減収となったものの、連結経常利益および当期利益は前期を上回る結果となりました。

【当期の損益】

連結経営成績は、売上高66,250百万円(前期比▲4,019百万円)、経常利益6,182百万円(前期比+416百万円)、当期純利益4,193百万円(前期比+294百万円)となりました。

単体経営成績は、市場環境の変化や建設関連需要の厳しさが続くなか、当社独自の高付加価値鋼板「Jクラフト[®]」「ガルフレックス[®]」の拡販や建材商品「ジョイント立平[®]」等の積極販売とコストダウン努力により、売上高57,412百万円(前期比▲4,525百万円)、経常利益6,053百万円(前期比+543百万円)、当期純利益4,191百万円(前期比+434百万円)となりました。

【次期の見通し】

国内の建設市場は、建設コスト上昇や人手不足等の影響は当面続くものと想定され、住宅・非住宅ともに本格的な需要回復にはなお時間を要するものと見込まれます。加えて、原材料価格や物流費・労務費等の諸物価の上昇、また中東情勢をはじめとした地政学的影響、輸入材の流入動向等、事業環境は依然として不透明な状況が続くものと認識しております。このような経営環境のもと、当社は以下の施策を通じて収益基盤の更なる強化に努めてまいります。

1) 鋼板事業では、環境に優しいクロメートフリーカラー鋼板「Jクラフト[®]」、優れた加工性を有する「ガルフレックス[®]」を中心に拡販を推進してまいります。加えて、新たな高付加価値鋼板の開発を通じて収益力の強化を図ってまいります。

2) 建材事業では、省力化・省エネ・自然災害といった変化するニーズを的確に捉え、災害に強い「災強パッケージ[®]」の提案活動、高強度折板屋根「Jロック500[®]」「タイトロック500[®]」など機能性と安全性を両立した商品販売の強化、省エネルギー化対応の「ジョイント断熱[®]」の販売開始、省施工対応の「ジョイント横葺」の開発を進めニーズに対応した商品ラインナップを強化してまいります。

3) 製造面では、更なる操業安定化を図り、無駄のない効率的な生産と品質向上に徹します。設備の老朽化対応、カラー鋼板の品質レベルアップ、商品ラインナップの拡充や今後の商品展開を見据えた製造基盤の整備を進めていきます。

4) お客様に対しては、足元および今後の原材料価格や物流費をはじめ労務費・外注費・エネルギー費等の諸物価の上昇、ならびに商品価値に見合った価格をご理解頂くべく、丁寧な説明に努めると共に、安定調達・安定供給の継続のための販売価格の適正化に取り組んでまいります。

以上